

トルコの新型コロナウイルス感染症の状況 (4)

【概要】

世界で感染が拡大している新型コロナウイルス。トルコでは感染拡大のピークは一旦越えたとされているが、経済活動の再開に伴い、他国と同様、感染が再拡大している。トルコで1人目の感染者が確認されたのは3/10と比較的遅かったが、7/8現在、感染者208,938人(1,041人/日)、死者5,282人(22人/日)、快復者187,511人(2,219人/日)、重症者1,578人(人工呼吸器装着者406人、ICU入院者1,172人)で、感染者数は世界第15番目、中東ではイラン、サウジに次いで多く、欧州では英国、スペイン、イタリアに次ぐ。死者数は15番目に多く、欧州では4番目、中東では2番目で、致死率は2.5%程度である。感染者の約半分は最大の都市イスタンブルで確認された。

トルコでは新型コロナウイルスの対策として、初期の3~4月は仮設病院の建設や病床確保等により医療体制を整備すると同時に、「Hayat Eve Sığar (The Home Holds Life)」をスローガンに、教育機関、飲食店、ショッピングモール、スポーツ施設、娯楽施設、博物館等を閉鎖、週末や祝祭日の外出規制、高齢者や子供の外出禁止、及び県外への移動制限等により人の接触を最小限にとどめて感染拡大を防いだ。4/11に感染者5,138人、4/17に死者126人の最高値を記録したが、5月に入り1日当たりの新規感染確認者は1,000人以下に、死者は30人程度にそれぞれ減少、医療環境も整ったことから、感染症予防策を講じるという条件付きで、政府は通常化に向けて教育機関以外の活動の制限を段階的に緩和した。厳しい規制により経済を停滞させるよりも予防策を講じながらの経済活動を再開する方へ転換したのだ。予防策とは、「新しい日常」のなかでマスク着用、社会的距離をとること、手洗いと消毒による「Kontrollu Sosyal Hayat (コントロールをしながらの社会生活)」で、これらを徹底するように国民に呼びかけている。同時に、県外移動の際の感染者との接触を管理する移動用アプリ「HES」や、ホテルや飲食店等にヘルス・ツーリズム認証制度を導入した。6月半ばの国際線の再開により海外との往来が復活、7/1以降は予防対策をすることを前提に結婚式場、兵役の壮行会、映画館や劇場等の娯楽施設等も再開され、教育機関以外はおおむね活動が認められるようになった。

今回のトルコ政府がとった一連のコロナ対策により、トルコには危機に直面した時に柔軟かつ迅速に対処する力があること、デジタル化が進んでいること、社会においては人々の間で助け合いが見られたこと、138カ国に対する医療品等の支援を通し、宗教や民族の違いを乗り越えての人道外交を貫いたこと等に特徴がみられた。イスタンブルを7/9に訪問したWHO欧州事務所長も、欧州諸国と比較し、トルコ政府が高齢者を隔離したことにより致死率や重症化を抑えたことや、迅速な対応等に対して評価している。

コジャ保健相は会見で、最近では新規感染者に低年齢化が見られること、重症者用の病床使用率には変化がなく、新規入院者数も多いことから、将来的に医療が逼迫する可能性があること、多くの人が集まる場で感染が広がりやすいこと等を説明し、ウイルスとの戦いは国民8300万人が心をひとつにすることが必要であり、節度ある行動をとることと、医療従事者に対する配慮を呼びかけた。7月末には犠牲祭休暇を迎えるが、どのような措置がとられるのかは最近のトルコ人の関心事のようである。

【ご参考】

1. 2020年1~2月

1/10、専門家によるCoronavirus Scientific Advisory Boardを組織。1/24、各空港にサーモカメラを設置し、中国からの渡航者を中心にスクリーニング、及び、税関に赤外線体温計、消毒液を設置、希望者にマスクの配布を開始。1/31、武漢滞在中の自国民の為に帰国便派遣。2/1、中国からのフライトを停止。2/23、イラン国境クムを封鎖。イラン=トルコ間のフライトを停止。2/29、イタリア、韓国、イラクのフライトを停止。イラクとの陸の国境封鎖。イラクとイランの国境近くに簡易病院を設置。

2. 2020年3月以降

《経済》

3/17 婚約・結婚式場、音楽付食堂・カフェ、カジノ、ピヤホール、喫茶店、カフェテリア、飲食付エンターテイメント場、野外宴会場、水たばこ店、水たばこ喫茶、インターネットサロン、インターネットカフェ、ゲームセンター、子供用室内遊戯場(AVMやロカント内設備含む)、団体の活動(特例を除く)、遊園地、プール、ハمام、サウナ、温泉、マッサージサロン、スパ、ジムの営業を停止。

- 3/18 雇用と産業を守ることを最優先とすることを前提に、1兆リラ（1兆6,000億円）の経済パッケージを発表。国内線航空運賃のVATを18%から1%に、小売業者等に対する社会保障費や税の納付期限延長、年金最低額の増額、銀行への債務返済の3か月間延期、輸出業者への資金支援、銀行に対する貸し渋り禁止等。
- 3/20 ショッピングモールの短縮営業開始。
- 3/21 ショッピングモール、理髪店、美容院、エステサロンの営業停止。
- 3/22 飲食店の営業をテイクアウトとデリバリーに限定。
- 3/24 スーパーの営業を9～21時に短縮。来客同士は1m間隔をとる。面積当たりの人数による入場制限。
- 4/1 スーパーの棚は最低3m間隔に、店舗内の入場者制限、出入り口を分けると内務省が通達を出す。
- 4/2 郵便局（PTT）のうち混雑が緩和できない支店の閉鎖
- 5/11 ショッピングモール、美容室、理容室、ビューティーサロン営業再開（ルール有）。自動車関連工場再開。
- 6/1 カフェ、レストランの営業を22時まで可。プール、温泉、ビーチ、公園、博物館、ユースセンター、図書館、スポーツ施設再開。
- 6/10 カフェ、レストランの営業は24時まで営業可。
- 6/15 婚約式用サロン再開。
- 7/1 結婚式場、映画館、劇場を再開（感染予防ルールに準じる）

《海外との往来の制限》

- 2月 中国、イタリア、イラン、イラク、韓国便の運航停止
- 3/14 独、スペイン、仏、オーストリア、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、ベルギー、オランダへのフライトを4/17迄停止。アゼルバイジャン、ジョージアとは空路及び陸の国境閉鎖。（後に期間延長）
- 3/16 英、アイルランド、UAE、スイス、エジプト、サウジとのフライト停止、メッカ巡礼帰国者隔離。
- 3/17 欧州滞在者の帰国希望者約3614人向けに34便を派遣。帰国者は学生寮等で14日間隔離。
- 3/21 アジア、アフリカ、中南米諸国等46カ国（全68カ国）を航空便運航停止対象国に。
- 3/23 在外公館の査証発給業務を停止。
- 3/27 ターキッシュエアラインズが全国際線を運休（貨物以外）
- 6/11 国際線再開、（5/28より順次国際線を再開（19カ国）予定だったが6/10に延期、その後再延期）
- 7/3 イスタンブール空港内2か所にPCR検査施設が開設。出発、到着時に受けられ、外国人は15ユーロ。1時間あたり2000件、1日あたり4万件の検査が可能。
- 7/4 ターキッシュエアラインズが羽田便を就航。
*在外トルコ人帰国希望者向けの特別機が順次運行し、128カ国より8万人のトルコ人が帰国。帰国便のない外国人に対しても随時搭乗させている。（6月時点）

《国内の移動》

- 3/23 市内の公共交通機関は定員の50%での運行に制限。
- 3/27 国内線フライトを主要都市間に限定。長距離バスは条件付運行。都市間の移動は許可取得義務。
- 3/28 イスタンブールのマルマライ、アンカラの首都鉄道を除き新幹線、高速列車等の鉄道が運休。
- 3/30 主要都市（イスタンブール、アンカラ、イズミル）でのタクシーの運行制限（末尾ナンバーで区別）。
- 4/3 国内線フライトを4/20まで運休（その後、5/28再開に変更）
- 4/3 主要31都市間の移動を15日間禁止（以降継続）。医療のサポート、葬儀、軍等の移動は条件付きで許可。
- 4/6 イスタンブール市内の地下鉄は21時まで運行。一部の市内交通停止。
- 4/11 主要31都市の48時間（4/11-12）外出禁止。禁止の2時間前に内相が発表したためパン屋、マーケットに人が集まり混乱。（SNSで批判が殺到、混乱を生じさせたとソイル外相は辞意を表明するも、4/13に大統領に受け入れられず留任）
- 4/11 イスタンブールのメトロが週末運休
- 4/13 31都市（30大都市とゾルンダルック）は週末4/18-19の外出を禁止。以降、毎週末と祝日は外出禁止に

- 5/4 アンタルヤ、アイドゥン、エルズルム、ハタイ、マラトゥヤ、メルシン、ムーラの移動制限解除。
- 5/5 イスタンブル、アンカラ、イズミルで実施中のタクシーの営業制限（末尾の偶数、奇数別）解除。
- 5/11 アダナ、デニズリ、ディヤルバクル、カフラマンマラシュ、マルディン、オールドウ、シャンルウルファ、テキルダー、トラブゾンの移動規制解除。
- 6/1 全県にて都市間移動規制解除。国内線が再開（イスタンブル=アンカラ、イズミル、アンタルヤ、トラブゾ）。移動用追跡アプリ HES 登録を義務に。

《人々の行動に対する制限等々》

- 3/19 宗務庁は集団礼拝の禁止に加え、モスクの金曜礼拝中止の通告 **muftis** を発出。
- 3/21 軍の式典の延期。床屋、美容院の営業停止。公園、バーベキュー場等でのバーベキューを禁止。
- 3/22 65 歳以上の高齢者及び慢性疾患者の外出禁止。
- 3/27 ピクニック場、森、遺跡（観光地）の週末の閉鎖。週末のピクニック、釣り、屋外の運動（町中でのランニングやウォーキング含む）を当面の間禁止。自治体ごとに平日も適用するか決定。
- 4/3 20 歳以下の外出禁止。公の場でのマスク着用義務化。
- 4/3 31 都市での 15 日間入県禁止。20 歳以下の外出を禁止（4/5 に 18-20 歳の就労者は例外に変更）人の移動が 75%まで減少。
- 4/8 墓地を閉鎖。ラマザン中の **Tarawih** の祈りはモスクでは行わないと宗務庁発表
- 4/9 20 歳以下の外出禁止の例外として、自閉 **autism**、重度の精神疾患、ダウン症を追加。
- 4/10 31 都市で週末の外出禁止を発令 2 時間前に通達。混乱が生じる。
- 4/16 31 都市での週末の外出禁止の通達。ただし、パン屋、薬局、病院、公共サービス事業は営業可。
- 4/23(祝日)~26 31 都市での週末の外出禁止の通達。例外あり。
- 5/4 65 歳以上は週 1 回、4 時間外出可。14 歳以下の子どもは 5/13 11~15 時に外出可。ソーシャルディスタンス順守。15~20 歳は 5/15 11 時~15 時に外出可。身体的距離を空けることを呼びかけ。
- 5/11 一部都市での移動規制、週末の外出規制解除。
- 5/16~19、一部都市で外出規制（5/19 は祝日）
- 5/23~26 断食明けの祝日の外出禁止。
- 5/29 一部モスクで金曜礼拝再開。（感染予防策順守）
- 5/30 65 歳以上は許可取得の上、1 カ月滞在することを条件に移動可（付き添いは 3 日間で戻る）。子どもは必要な訪問先に保護者同伴で外出可。
- 5/29 外出禁止の若年層の対象を 20 歳未満から 18 歳未満に変更
- 5/30~31 15 県で外出禁止。ただし 5/30 は徒歩圏の食料品店へは外出可。
- 5/31 65 歳以上は 14~20 時外出可。
- 6/3 18 歳未満は 14~20 時外出可
- 6/5 18 歳未満は 14~20 時外出可
- 6/1 公務員の通常勤務再開。全県の都市間移動規制解除（都市間移動には HES コードを取得）
- 6/6~7 15 都市にて外出禁止令が出されたが、エルドアン大統領により解除
- 6/10 65 歳以上は 10-20 時外出可。18 歳未満は保護者の帯同を条件に外出可。
- 6/18 一部の県で公共の場でのマスク着用を義務化。違反者は罰金。
- 6/20 高校入試にかかる外出制限
- 6/27,28 大学入試にかかる外出制限
- 7/1 全国のモスクが再開。

《文化、スポーツ関連》

- 3/16 3/30 まで全国の図書館閉鎖を発表。
- 3/17 公の休憩所や娯楽施設（劇場、映画館、展示場、コンサートホール、ジム）を閉鎖。
- 3/20 4 月末まで学術、文化、芸術の集会や催し等を禁止。競馬の無期停止。

- 3/22 スポーツ試合は4月末まで無観客試合、文化観光省主催の芸術関係のイベントは4月末まで延期。
- 5/10 サッカーリーグは6/12に試合再開を発表
- 5/11 バasketボール、バレーボールの今シーズン終了を発表
- 6/1 スポーツ施設、博物館等が再開
- 6/12 サッカーリーグが再開

《教育》

- 3/12 大学が休校。学生寮の入寮者は退出（寮の隔離施設転用のため）。on-line 授業へ順次切り替え。
- 3/16 小、中、高が休校。
- 3/23 国営放送 TRT 局で小中高の遠隔授業を開始。テレビ、ネット環境に不備がある家庭に対しては補助。3GBまで無償。3/26、4月末までの休校措置を発表。
- 3/26 高等教育委員会が大学の春学期授業は遠隔実施を発表。
- 4/29 遠隔授業を5/31まで延長を発表。
- 5/8 統一試験を1週間延期（高校入試（LGS）は6/20、大学入試（YKS）は6/27-28）。
- 5/18 学校再開を9月の新年度に延期
- 7/21 春学期終了
- 8/31 新学期（新年度）開始

《政治》

- 4/12 ソイル内相が急に週末外出禁止令を出し国民の混乱を招いたため辞任を表明したが、エルドアン大統領が認めず留任。
- 4/14 コロナ患者の治療費を無償に。
- 4/16 コロナウイルスの影響を勘案した予算が国会で承認。
- 6/2 48日ぶりに国会召集（マスク着用等義務化）
- 6/4 コロナ後初の海外要人としてリビアのサラージュ暫定政府首相が訪土。エルドアン大統領と会談。
- 7/3 コロナ後初の外遊としてエルドアン大統領が日帰りでカタルを訪問
- 7/9 WHO がイスタンブール事務所設置を発表

《日本関連》

- 3/18 日本はトルコを含む全世界に対し感染症危険情報1を発出。
- 3/21 在トルコ日本大使館はターキッシュエアラインズの減便が見られることから、短期渡航者、帰国予定者に対し、早期帰国の検討についての通達を発出。
- 3/24 宮島大使がコジャ保健相と面談。
- 3/25 ターキッシュエアラインズの成田便最終便運航。（6月再開の可能性）
- 3/31 トルコを含み感染症危険情報レベルを3（渡航をやめてください）に引き上げ。
- 4/3 午前0時（日本時間）より入国拒否対象地域に追加。（14日間の待機、公共交通機関不使用陽性、PCR検査の実施対象。トルコから入国する外国人は特段の理由がない限り入国拒否）
- 4/17 安倍総理とエルドアン大統領は約20分間、電話会談を実施。内容は下記通り。（外務省HPより）
 - ①エルドアン大統領から、新型コロナウイルス感染症にかかるトルコの取り組みにつき説明があり、安倍総理からエルドアン大統領のリーダーシップの下、あらゆる措置で新型コロナウイルス感染症に立ち向かっていることに敬意を表した。
 - ②安倍総理から、新型コロナウイルス感染症に関する日本での取り組みを説明するとともに、トルコにおいて日系企業と現地企業が共同で建設した病院が感染者の治療に貢献することを期待している旨述べた。これに対しエルドアン大統領は、新型コロナウイルス感染症に関する日本政府の対応を高く評価する旨述べた。
 - ③両首脳は感染の拡大防止に向け緊密に連携しつつ、引き続き日トルコ関係の強化に取り組んでいくことで一致。
- 5/11 いすゞ、トヨタ、ホンダ工場等は停止中だった工場を含め生産再開。

5/21 一部オープンしていたイキテリ市民病院（双日、トルコ企業ルネサンス PPP がバシヤクシェヒル「松と桜市民病院」として開院。式典にはエルドアン大統領、安倍総理はオンライン参加。一般、循環器、癌、婦人科、小児科、整形外科、理学の各病棟からなり、欧州最大規模。病床数 2,682 床、一日の患者受け入れは 32,700 名。当初は 2020 年 6 月の開院を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策として 4/20 に一部開院し、正式開院も繰り上げた。最先端の免震建築、ヘリポート 3 機分、有事には大多数の病室を集中治療室に変換できること等が特徴。1 万人の雇用も創出。

6/18 臨時成田便運航

7/4 羽田便就航（週 2 回の定期便）

*トルコは新型コロナウイルス感染症危険レベル 3（渡航中止勧告）

*日本からの渡航者に対する自主隔離は不要。

《諸外国に対する支援》

4/1 NATO Euro-Atlantic Disaster Response Coordination Center に NATO 加盟国として防護服、消毒薬、マスク 45 万枚等の医療物資支援を実施。スペイン、イタリア向け。

4/14 英国へ軍用機で医療物資支援（N-95 マスク 5 万枚、衛生マスク 10 万枚、防護服 10 万着等）。

*トルコは米、外交関係縮小中のイスラエル、断交中のアルメニア等 183 カ国に支援物資を送付。

《医療関係》

3/30 イスタンブールのオクメイダヌ病院の耐震補強工事が終了し再開、コロナ患者受け入れ、600 床。

4/1 トルコ全 81 県で感染者、39 県で死者。601 人の医療従事者感染、医師 1 名死亡を含む。

4/6 イスタンブールの新旧空港に仮設病院建設計画を発表。約 2,000 床（コジャ保健相は 5/6 に仮設病院は自然災害等の緊急事態に備えた医療施設としての利用を見込んでいるため、コロナ収束後も活用が期待できると発言。仮設病院はコロナ以外に大震災発生時にも利用される予定と表明）。マスク販売を禁止、保健省と交通インフラ省の協力で外出禁止の 20 歳以下と 65 歳以上を除く希望者へマスクの無料配布開始。

4/21 イキテリ病院（後に松と桜病院に名称変更）一部開院。

5/6 保健省と統計局は 15 万人の PCR と抗体検査を実施すると表明。

5/7 マスク販売を再開。価格の上限を 1 枚 1 リラに。

5/21 日土 PPP によるバシヤクシェヒル「松と桜病院」開院

5/26 イスタンブールに仮設病院 Sancaktepe の Prof.Dr.Feriha Öz 救急病院(1,008 床)開院

6/20 イスタンブールにマルマラ大学 Dr.asaf Ataseven 病院開院。

7/5 イスタンブールの Kartal に Dr. Lütfi Kırdar 市民病院開院。

*国防省がマスク、防護服等を製造、民間企業が医療関連物資の生産に協力（自動車→人工呼吸器、繊維製品→マスク、等）。工業高校、刑務所でもマスク製造を実施。

*各大学で検査キット、ワクチン、治療薬の開発を実施。

*在外トルコ人家族に医療用飛行機を派遣（医療用機は無償）。

*人口呼吸器を 5,000 台生産。

*6,000 チームで全国の感染者の接触者、感染経路等の調査を続けている。

《段階的な正常化プロセス》

トルコ政府は 5/3 に第 1 段階：5/11~5/26、第 2 段階：5/27~8/31、第 3 段階：9/1~12/31、第 4 段階：1 月以降と分けて正常化プロセスを実施すると公表。（日程には 5 月の発表時とずれ）

第 1 段階 (5/11~)	65 歳以上は 5/31(日 14-20 時、18 歳未満は 6/3,5 の 14~20 時に徒歩圏内、マスク着用、社会的距離を順守の上の外出を認める。週末の外出禁止。バイラム期間中の外出禁止。
第 2 段階 (6/1)	都市間移動制限を廃止。長距離移動（バス、飛行機）は HES コード取得義務。公務員の通常勤務再開。レストラン、カフェ、プール、温泉等は 6/1 に 22 時まで営業可。

	<p>65 歳以上は 6/1(日)14 時～20 時の外出可。6/10 以降は 10-20 時外出可。65 歳以上の (65 歳以上の事業主、商店主、職人は条件付きで勤務可能)</p> <p>20 歳以下だった若年層の外出制限を 18 歳以下に引き下げ。6/3,5 の 14～20 時の外出許可。6/10 以降は保護者帯同にて外出可。海岸、公園、博物館、ユースセンター、図書館、スポーツ施設を再開。・空路は 6/1 に国内線運航再開 (イスタンブル=アンカラ、イズミル、アンタルヤ、トラブゾン)。国際線は 6/11 より徐々に再開。都市間バスは稼働率 50%で運行。(7/1～) 結婚式場、葬儀、兵役の壮行会、インターネットカフェ再開</p>
第 3 段階 (9/1～)	学校再開

《その他》

- ・ 3/1 より感染予防のため、公共の場、交通機関、手指用消毒薬設置を開始。
- ・ 3/19 より保健相が医療従事者に対する謝意を示すため、毎晩 21 時に拍手を送るよう呼びかけ。
- ・ 3/22 に官公庁でフレックスやリモートワークを導入。
- ・ 著名人の感染者では、元陸軍司令官 (79 歳) がイランからの帰国後に死亡等。その他著名人の罹患多数。
- ・ 公共広告や企業広告では「家にいるように(#Evde kalın)」と呼びかけているものが多数。
- ・ 医療従事者の働きぶりや、快復者についての報道多数。(退院時に拍手が送られる様子等)
- ・ 外出禁止の高齢者に対する買い物代行等を公務員等が実施。外国人に対しても同様の対応。
- ・ 自国民用に国外派遣したチャーター機に帰国困難だったウクライナ人を搭乗させ話題に。
- ・ 野犬、野良猫を地域コミュニティが守っており、公務員が餌やり等を実施。
- ・ トルコが伝統的に使用するコロンヤ (香り付きアルコール液で、消毒に有効) が話題に。
- ・ 4/23～5/23 のラマザン月のイフタル (断食明けの食事) で大勢が集うことも控えることを呼びかけ。
- ・ 5/7 にトルコリラは対ドル市場最安値 (\$ 1=TL7.204)。
- ・ トルコはコロナに関しては海外に支援を求めず、自助努力。募金キャンペーン「Biz bize yeteriz (自分たちで賄おう)」を 3/30 に開始、国内で連帯と寄付を呼びかけ、6/9 現在で 20.8 億リラ(約 333 億円)に到達。
- ・ 3 月は感染者の 62%が入院、現在は 6.7%。4 月に、ICU は 200 人から 50 人程度に、人工呼吸器使用者は 140 人が 25 に程度に。ICU 入院が平均 15 日間から 1-2 日に短縮。
- ・ 迅速なデジタル導入 (都市間移動 HES アプリ、感染状況確認の地図アプリ等) で感染対策を強化。
- ・ モスクでの集団礼拝禁止は、宗教的保守派の AKP にとっては思い切った、また、世俗派政党ではできなかった感染予防策。
- ・ トルコの対策については Daily Sabah の報道によると、外出制限、初期段階からの感染経路の追跡、積極的な検査、病床確保等を迅速に行ったことが感染者拡大や重症化を防ぎ、トルコの文化として老人ホームに住む高齢者が少ないことでクラスター感染を避けられたことで感染拡大や重症化を防いだと英国メディアで評価された。

以上